

第1回 江別市行政審議会専門部会（第1部会） 議事録

日 時：令和5年1月26日（木） 午後6時～午後8時20分

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：明神委員、井上委員、春日委員、齋藤委員、星委員、山崎委員、小野秀司委員、本山委員 計8名

欠席者：清水委員、町村委員 計2名

事務局：川上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口参事（総合計画・総合戦略担当）、北島主査（総合計画・総合戦略担当）、眞鍋主査（総合計画・総合戦略担当）

傍聴者：1名

1 開会

（事務局）

ただいまから、第1回江別市行政審議会専門部会第1部会を開会いたします。

本日の進行であります。次第2の部会長選出の議事が終了するまで、私が進行してまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日、清水委員、町村委員から欠席のご連絡を、齋藤委員から遅れる旨のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

議事に入る前に、本日の審議会に傍聴希望者がいらっしゃいます。発言権はなく、傍聴のみということで入室を許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、傍聴を許可いたします。傍聴者の入室をお願いします。

（傍聴者入室）

2 部会長選出

（事務局）

それでは、議事に入ります。

次第2の部会長選出を議題といたします。

皆様にお諮りいたしますが、部会長の選出に当たっては、審議会の正副会長がそれぞれ第1部会と第2部会にいらっしゃるということから、当部会の部会長は、審議会の会長である、明神委員にお引き受けいただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

（事務局）

ありがとうございます。皆様からご賛同いただきましたが、明神委員、いかがでしょうか。

（明神委員の承諾）

それでは、ここからの進行につきましては、明神部会長にお願いしたいと思います。明神部会長、よろしくお願いいたします。

3 審議事項

(1) 第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案について

(明神部会長)

全体会とは異なる雰囲気、皆様との距離も近く感じております。専門部会でも、活発なご意見をいただければと思います。

それでは、次第3の審議事項を議題とします。

まず、専門部会の審議方法について、どのように審議を行っていくのか、事務局から案があれば、説明願います。

(事務局)

審議の流れの案について、ご説明申し上げます。

はじめに、専門部会での審議は、これまでと同様に、市の説明に対して、質疑やご意見をいただきたいと思っております。次に、専門部会では、「まちづくり政策」のあらゆる分野について審議いただくことから、専門、専門外にかかわらず、様々なご意見を頂戴したいと考えております。また、発言しやすいように座席を車座の配置といたしました。

なお、専門部会では、進行役である部会長からもご意見を頂戴するほか、立場の違いはあっても、市も皆様から多くの意見をいただきたいと考えておりますことから、車座の中に参加して、対話形式での審議を進める手法はいかがかと考えております。

説明は、以上でございます。

(明神部会長)

ただいま、事務局から審議の流れについて説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(質問なし)

それでは、専門部会の審議方法については、市から提案があった方法で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

それでは、担当者は、席の移動をお願いします。

(事務局担当者の席移動)

(明神部会長)

それでは、審議を始めます。

第1部会では、「暮らしを便利に、経済を元気に」というテーマとしており、まちづくり政策では、01自然・環境、02産業、04安全・安心、05都市生活、09計画推進について、審議します。

事務局から、資料1の第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案についてを説明願います。

(事務局)

私から、第1部会の審議事項である、第7次江別市総合計画「まちづくり政策」の案の

全体概要について、ご説明申し上げます。

資料1の表紙をご覧ください。

前回の審議会で確認されたとおり、この第1部会では、全九つの政策のうち、五つの政策について、ご審議いただきたいと存じます。

先ほど、審議の流れの説明で申し上げましたとおり、五つの政策について一通り説明した後、政策01から順に、改めて要点を説明した上で、審議をお願いしたいと考えております。

それでは、1ページをお開き願います。

はじめに、政策01自然・環境であります。基本目標に、豊かな自然とともに暮らす、環境にやさしく、美しいまちを掲げ、江別市の豊かな自然や地域環境を次代に引き継ぐための取組を行うほか、安全で快適な生活環境づくりを進めるための取組を行うことといたします。なお、取組の基本方針は、(1)人と自然の共生及び(2)循環型社会の形成の2本柱で構成いたします。

また、それぞれの取組の基本方針には、持続可能な開発目標、いわゆるSDGsで掲げる17のゴールのうち、関連するゴールのマークを表示しております。全17のゴールについては、最後の23ページに一覧と説明文を掲載しておりますので、参考にいただければと存じます。

3ページをご覧ください。

次に、政策02産業であります。基本目標に、産業が地域に根ざす、活力とにぎわいのあるまちを掲げ、北海道の大都市圏に位置する江別市の優位性を生かした活力ある産業の創出を目指し、農業の推進をはじめ、商工業の振興や、観光振興に取り組むことといたします。なお、取組の基本方針は、(1)都市近郊型農業の推進、(2)商工業の振興及び(3)観光による産業の振興の3本柱で構成いたします。

6ページをご覧ください。

次に、政策04安全・安心であります。基本目標に、安全で安心して住み続けられるまちを掲げ、交通安全や防犯活動の推進をはじめ、生活衛生環境や冬の生活環境の充実などに取り組むほか、防災力の向上、消防・救急体制の充実により、災害に強く、誰もが末永く安心して住み続けられるまちづくりを行うことといたします。なお、取組の基本方針は、(1)安全な暮らしの確保、(2)地域防災力の向上及び(3)消防・救急の充実の3本柱で構成いたします。

9ページをご覧ください。

次に、政策05都市生活であります。基本目標に、いつまでも暮らしやすく、便利で快適なまちを掲げ、計画的な市街地整備により、機能的な都市づくりを進めていくほか、安全で快適な道路環境の確保や、公共交通の活性化などによる交通環境の充実を図るとともに、デジタル技術を活用するなど、全ての市民が暮らしやすく、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めてまいります。なお、取組の基本方針は、(1)市街地整備の推進、(2)暮らしを支える交通環境の充実及び(3)暮らしを豊かにする技術の活用3本柱で構成いたします。

11ページをご覧ください。

次に、政策09計画推進であります。基本目標に、市政運営の状況がいつでも分かりやすく、市民の思いに寄り添うまちを掲げ、時代の変化と地域課題に応じた市政運営を行うほか、市民と市の情報共有を図るため、様々な媒体を通じて広報広聴の充実を図ってまいります。なお、取組の基本方針は、(1)自主・自立の市政運営の推進及び(2)透明性と情報発信力の高い市政の推進の2本柱で構成いたします。

以上が、第1部会において審議するまちづくり政策の概要ですが、13ページ以降は、第2部会が審議するまちづくり政策を参考に掲載しております。

(明神部会長)

一通り資料について説明いただきましたが、政策ごとに審議を行っていきたいと思います。なお、審議は先ほど協議したとおり、委員の皆さんからご意見をいただくほか、市からもお話しいただきながら、議論を重ねていきたいと思います。

はじめに、政策01自然・環境から、審議を行います。市から改めて、要点などがあればお話しいただきたいと思います。

(事務局)

資料1の1ページをご覧ください。

政策01の要点であります。取組の基本方針(1)のうち、今回、新たに設けた施策として、①脱炭素社会の実現があります。ゼロカーボンや、カーボンニュートラルとも言われておりますが、現在、世界的に地球温暖化が問題となっており、これを防ぐための取組を各国で努力する必要があることから、日本でも温室効果ガス排出量を実質ゼロにするための取組を進めております。当市においても、豊かな自然を次の世代に残し、引き継いでいくための取組を行う必要があると考えており、これに関連して、④では、再生可能エネルギーの導入拡大と利用促進に取り組んでいきます。

次に、2ページをご覧くださいと思いますが、リサイクルについては、自治会の取組や、民間事業者の積極的な参入などもあり、市民意識は向上していると思いますが、発生抑制や再使用の取組も、より積極的に取り組んでいく必要があると考えているため、委員の皆様には、特に、江別市の豊かな自然・環境を守るための取組などについて、ご意見をお聞きできればと思います。

(明神部会長)

ただいま、事務局から政策01について説明がありましたが、委員の皆さんから、お気づきの点があれば、ご発言いただきたいと思います。また、市からは回答のほか、委員への質問があれば、あわせてお願いします。

(春日委員)

市としては、どのような再生可能エネルギーを積極的に導入するのでしょうか。

(事務局)

市では、総合計画に合わせて、令和6年度から開始予定である次期の江別市環境管理計画の策定に着手しており、今後、ゼロカーボン宣言をすべく、取組を進めているところです。太陽光発電をはじめ、あらゆる再生可能エネルギーの市有施設での導入や各企業への利用促進を進めていく予定です。まずはどのような取組が地球温暖化対策に有効であるのかを検討するところから始めていくことになります。既に取り組んでいる事業者もいらっしゃるため、民間企業とも意見交換をしながら、積極的に進めていくことになろうかと存じます。

(春日委員)

少し危惧しているのは、私は農業関係者ですが、全国的に農地に太陽光発電設備を設置するケースが非常に増えている点です。当市にもいくつかあると思います。発電に利用するのは良いのですが、太陽光パネルは耐用年数もあるので、10年、20年経って、太陽光パネルが使えなくなった時に、その下の農地が果たして生きているのか不安に感じます。土地自体が、不耕作地、放棄地になってしまう可能性もあるため、闇雲に農地に設置するような形での再生可能エネルギー導入の推進は危険だと思い、意見させていただきました。

(事務局)

市内全域で進めようとしても、農地に悪影響を及ぼすことのないよう、市でも調査・研究する必要があると思います。

そこで、皆様にお尋ねしたいのですが、地球温暖化対策で、我々が小さなことからできることや、気をつけた方がよいことについて、ご意見をいただけますか。

(星委員)

当たり前のことですが、使っていない電気を消すなどは心掛けています。また、歯を磨くときに水を出しっ放しにしていると、大体1年間でお風呂1回分の水が流されるので、コップを使うなど、小学校などの出前授業の中で話をしています。今、地球温暖化対策に関して様々な情報が出ていますが、情報が出ているからこそ、自分ができる取組を選んでいくことがとても重要です。必要なこと、大事なことは、皆さんで異なるので、一人ひとりがたくさんある取組の中から選んで実践していくことが大事だと思います。

(本山委員)

本当に小さなことと言えば、移動の際には、できるだけ自転車を使うように心掛けています。情報不足、知識不足で、脱炭素社会の実現や、温室効果ガス排出ゼロと聞いても、できるのかなと思いましたが、ワークショップに参加して、自転車を使う、カーシェアリングを行うなど、自分でもできることが意外にあると分かりました。議論する場があると、様々な取組も身近に感じると思います。学生も一人ひとりが意識すれば変わることもあると思うので、ワークショップなど、地球温暖化対策について議論や話す場があると良いと思います。

(小野秀司委員)

私は、主に二つ意識しています。一つ目は移動手段です。定年になったこともあり、自家用車を軽自動車にしました。燃費も良くなり、税金も安くなり、駐車場に入れやすく便利で、環境にもやさしいと思います。二つ目は電気です。エネルギー関係で、これも思い切って、電気を多く使う冷蔵庫や洗濯機を、節電や節水タイプに買い替えました。車に関しては、電気自動車も良いと思いましたが、生産段階で二酸化炭素を多く発生させるので、トータルではどうなのかという情報もあります。導入時の補助金もありますがまだ高く、手が出にくいものの、魅力的だと思います。また、例えば、一人で札幌市に行く時はなるべく車ではなく、公共交通機関を使うことを意識しています。

そこで、再生可能エネルギーに関して、市にイメージがあれば聞きたいのですが、「地産地消」という文言がありますが、例えば、再生可能エネルギーで発電をした分は売電することが多いと思いますが、防災の関係で、それを単に売るだけではなく、万一の場合、自分で使うという仕組みも出てきており、それもエネルギーの地産地消の一つではないかと思っています。一方で、民間企業が、大きな工場で発電する場合、市の施設でどう使うのか、地産地消の観点でどのように結び付くのか、市には、何かイメージがあるのでしょうか。

(事務局)

イメージとしては、一般住宅も、民間企業もそうですが、江別市内で作った電気を江別市内で使ってはどうかという考えがあります。江別市も再生可能エネルギーの導入でゼロカーボンを目指していくということであれば、市全体で考えた数値目標を掲げていく必要があるだろうと考えています。次期の環境管理計画は現在、策定中ですが、基本的には市全体で作り出す電気が、市内の住宅などの電力需要をどれ位賄えるかを、皆さんにお知らせしながら、分かりやすく進めていきたいと考えています。

(山崎委員)

私は、ごみ減量のために、生ごみの水切りに取り組んでいます。また、公共交通を積極

的に利用しています。今後、高齢化が進む中で、電気スクーターなど、他の地域で実証実験を行っているような取組を市として実施すると、生活が豊かになるほか、先立って行うことで、まちのPRにつながるため、積極的に取り組んでほしいと思います。

(井上委員)

私は、使えるものは使おうという、リサイクルには気を付けています。燃費や消費電力については、新しい製品が良いと思いますが、古いものでも使えるものは長く使うように心掛けています。

(川上部長)

皆さんのいろいろな意見をお聞きすると、身近な部分で、節電や節水といった、環境に関する配慮を、自分には何ができるかを我々自身が考えていかなければならないと思いました。そして我々大人は、固定観念などがあり、すぐに理解して行動に移すことが難しい部分もありますが、教育の視点で、星委員には、リサイクルネットワークの活動で、小学生や中学生を対象に買い物ゲームを実施いただくなど、様々な形で環境について教えていただき、子どもにいろいろなことを考えてもらう取組を行っていただいております。

子どもや若い世代に対する教育は、より力を入れ、環境や自然、そしてリサイクルも、子どものうちから、しっかり学んで、節水をはじめ、環境に配慮できることは、日常生活の中で当たり前ができるようになれば良いと思いますし、また、それが教育行政の責任であると思っております。

(明神部会長)

全体的に、脱炭素や環境が中心に示されていますが、野幌の原始林のような豊かな自然があるため、もっと皆さんに知ってもらえるようにしてはどうかと思います。子どもたちも野幌森林公園などに教育の場に行くこともあるかもしれませんが、野幌森林公園で楽しんでいる方の多くは高齢者です。バードウォッチングや家族連れの方もいますが、一部だと思います。これだけ豊かな自然があるのに、江別市民があまり認識していないのではないかと思います。いかがでしょうか。

(事務局)

えべつの未来づくりミーティングでも、江別市はとても魅力がある良いまちなのに、なかなか良さが伝わっていないのではないかという意見が、非常に多く寄せられました。そのため、次期の総合計画でも、広報だけではなく、情報発信の強化と充実を掲げたところでもあります。

自然環境に関わらず、江別市の魅力を、もっと発信していかなければならず、ここで言えば、環境教育の推進について、しっかりと取り組んでいく必要があると思っております。子どものうちから、江別市の環境、また、江別市のすばらしい自然をもっと知ってもらい、体感、経験してもらう取組が非常に重要だと思っております。

(井上委員)

確認ですが、今日いただいた資料は、見出しに関するもので、この後に詳細な内容が示されるという理解でよいのでしょうか。

(事務局)

総合計画では、取組の基本方針、(1)、(2)とありますが、その中の①から⑤などと記載しているところまで示します。そして、これを基に各担当部局では、個別計画を策定するなどして、そこからさらに事務事業に展開していく流れになります。

(井上委員)

最終的に示されるのは、これより詳しい内容が示されるのでしょうか。

(事務局)

総合計画において示すまちづくり政策の内容は、本日の資料で掲げる項目や文言までとなります。そして、この各施策に基づいて、担当部局では、例えば、緑の関係であれば緑の基本計画、環境では環境管理計画などを策定して、個別の事務事業を行います。例えば、環境教育であれば、小学生対象の教育事業を行うなど、個別具体的に数値目標を掲げて取り組むこととなります。

(井上委員)

江別市の魅力をより広く伝えていくのであれば、原始林の話もありましたが、そういう魅力のあるものをここに盛り込んでいかないと、一般的な内容になってしまうのではないかと危惧しています。江別市特有の魅力を記載しないと、多くの皆さんに読んでいただくものにはならないと思います。

(事務局)

担当部局にも伝えたいと思います。

(星委員)

政策01の(2)に該当すると思いますが、江別市廃棄物減量等推進審議会でフードロスや食物残さの減少に、市として取り組んでいると伺いました。これらの取組が、文言としてまちづくり政策のどこかに記載されていると良いのではないかと伺いました。

(事務局)

フードロスは大きな問題ですので、持ち帰って、担当部局と調整を図りたいと思います。

【政策02 産業】

(明神部会長)

次に、政策02産業の審議を行います。

市から、要点などがあればお話しいただきたいと思います。

(事務局)

資料1の3ページをご覧ください。

政策02の要点であります。取組の基本方針(1)は農業、(2)は商工業、(3)は観光に関する方針を記載しており、農業では、農業経営の安定化をはじめ、地産地消の推進、持続可能な農村環境づくり、農畜産物の高付加価値化を掲げております。

また、4ページになりますが、商工業では、食関連産業の振興をはじめ、企業立地の促進、中小企業の経営の充実、商店街の活性化、就業環境の充実を掲げております。

最後に、観光では、地域資源の有効活用をはじめ、誘客・周遊の促進や、江別製品の認知度向上を掲げております。

なお、今後、人口減少が進んでも、まちづくりの基本理念で掲げる、いつまでも元気なまちでいられるよう、地域経済を支える産業の活性化に、より一層取り組む必要があると考えているため、皆様が感じる課題や取組の方向性について、ご意見をお聞きできればと考えております。

(明神部会長)

ただいま、事務局から政策02について説明がありましたが、委員の皆さんから、お気づきの点があれば、ご発言いただきたいと思います。

(山崎委員)

観光協会は「えべつ観光協会」に法人化して以降、えべつマルシェを4回開催したほか、ホームページなどのデザインをリニューアルしたり、積極的に情報発信を行ったりしてきました。実際に観光に携わって分かったことは、江別市の観光振興は簡単ではないということです。登別市ならば温泉といったように、主だった観光目的がない。そのような中、江別市では「食と農」をテーマに試行錯誤しながらプロモーションなどを進めています。

(事務局)

本山委員にお尋ねします。江別市の観光地と言うと、どこが思い浮かびますか。

(本山委員)

コロナ禍もあり、大学1年生の時は、家と大学との往復で、外出をあまりしませんでした。2年生になって、江別市について少しずつ知り始めた状況で、まだあまり観光していません。東京から友達が来てくれた時に、「えべちユンククエスト」で市内のお店を回った時は、スイーツ系の店が多くて、どこもおいしかったです。ただ、学生のため、夏は自転車で行けませんが、天候に関わらずに頻繁に使える交通手段がないことやお金の面もあり、あまり観光には行けなかったのが、観光地はあまり浮かんできません。

話は変わりますが、最近思うのは、観光とは別ですが、大学生が活動しやすいまちだと思います。何かしたいと思った時に、「それ面白いね」と言ってくれる方が多く、地域活動をされている方たちの集まりに参加しやすいなど、そういった点は、とても魅力的だと思います。

(小野秀司委員)

観光関係の話で言うと、江別市民ではない外の目で見てもらって初めて気がつくことがあると思います。住んでいるとなかなか気がつきません。例えば、夏場に、国道12号の歩道から、酪農学園大学の敷地の風景写真を撮っている人がいます。北海道らしい景観で美しいと思いますが、地元の方はなかなかその美しさに気がついていないように思います。

知り合いで、大麻地区で民泊をやっている方がいますが、感染症対策の規制緩和も進んで、令和5年は1月から3月まで予約で一杯であるとのことでした。リピーターが多く、韓国やタイの方など外国人が8割ぐらいで、野幌森林公園でバードウォッチングなどしているそうです。また、酪農学園大学の敷地内を散策したり、公園でのんびり過ごしたりするらしく、都市部での生活はもういいという人がいて、そのような観光需要もあるのだなと思いました。

私も、先日の日曜日、野幌森林公園に行って、2時間ぐらい歩いてきました。妻が、最近人気のシマエナガを気に入っているため調べてみると、北海道のどこにでも生息していて、寒くなれば寒くなるほど丸くなってかわいいということで、野幌森林公園に行けばいいのではないかと思って行ったのですが、結局2時間歩いても見ることはできませんでした。その間すれ違ったのは、30人程度で、その4割程は60代以上と思われる方でしたが、若い人も多かったと思います。大きな望遠レンズを持って、野鳥の撮影をする人たちが半分以上でした。以前、同じ時期に行った時は、スキーを履いている外国の方がいましたが、今回は、スキーを履いて汗を流しているのは日本人一人だけでした。

それから、趣味で家庭菜園をやっていますが、自分の庭だけでは足りずに、野幌森林公園の大沢口のそばの空き地を貸してもらえたため、耕し始めました。ある時、札幌市に住む友人と話をしていたら、空知地方のクラインガルテン、家庭菜園付き別荘のようなところが良いとのこと、畑の世話もしてくれるし、育て方も教えてくれるし、畑の中をリスが走ってきたりするし、友人は毎週行っていると話していました。

一方、私は、野幌森林公園の近くに借りた畑に朝行くと、リスが歩いていたり、非常に自然に恵まれていて、むしろ江別市の方が良い環境ではないかと思いました。江別市に

も、クライנגアルテンのようなところがあれば、市外からも利用者が集まるのではないかと思います。

(事務局)

小野委員がおっしゃるとおり、道央の都市圏にありながら、他市に勝る魅力は、やはり自然ではないかと思います。そういったところを売りにすれば、市外の人目も目を向けてくれるのではないかと思います。

(小野秀司委員)

クライングアルテン発祥のドイツでは、泊りがけで自然に親しみながら野菜を育てるらしいです。健康のためにも良いのではないかと思いますし、江別市に向いているのではないかと思います。

(事務局)

自然が豊かな江別市が、そういったものに取り組んでいくと、さらに人気が出てくるかもしれないと思いました。春日委員は、「食と農」という視点で、いかがでしょうか。

(春日委員)

江別市に関しては、「食と農」について非常にクローズアップして取り組んでいただいていると認識しています。農業者の中にも、非常に意識の高い人がいて、行政の中にも、非常に農業にまい進している方もかつてはいましたし、今も当然いらっしゃると思います。しかし、江別市の土地の4割は農地で、それぐらい農地がある都市にもかかわらず、江別市の食材は何かと言われると、ハルユタカの小麦しか思いつかない状況です。それも、相当な苦勞の中で、ようやく実を結んだ結果です。やはり、第二、第三のハルユタカを作らなければならないという話は、常にしているのですが、残念ながら、至っていません。まちづくり政策の中で、産業の振興と書かれていますが、我々の努力も足りないのかもしれないと反省しています。

また、今後、さらに農業の担い手が減っていくと思います。現在も、担い手のみならず、人手も不足しており、親戚などの収穫を手伝ってくれる方も少なくなり、アルバイトやパートの方も減っています。酪農学園大学の生徒さんに来てもらって実施している事業もいろいろ取り組んでおり、今後もぜひやっていただきたいのですが、人手不足がどんどん進むと、結局、機械化などで生産効率を上げるために規模を拡大するしかなくなり、人手を要する野菜は収穫できなくなります。そうすると、先ほどスイーツの話も出しましたが、江別市ではブルーベリーや、いろいろな野菜や果物を作っていて、えぞ但馬牛も含め、とても多様性があるのですが、生産効率を求めるあまり、多様な農畜産物を生産する農家が減少してしまうという危険性があると感じています。経営規模の拡大だけではなく、今の現役世代の方に、生涯現役農業と我々道央農協は言っていますが、耕作できなくなった土地は、次の世代に受け継いでもらいながらも、今いる生産者に長く続けていただき、直売所などに野菜を提供していただくなどして、幅広い世代で農業を続けていかないと、非常に持続が難しい産業になると感じています。

計画案には、経営規模の拡大や、収益性の高い農産物の生産とありますが、生涯現役農業という視点も、行政として取り入れていただければ、いわゆる多様な生産物が江別市の中で生まれてくるのではないかと思います。江別市における多様な生産物としては、サツマイモや落花生などがあります。手前みそですが、私は10年ぐらい前から既に作っており、販売もしています。ブルーベリーもあり、いろいろなことができる環境です。そして、すぐ近くに札幌市があって、レストランに納入することもできますし、都市近郊型農業という形で非常に作りやすい環境にあるという強みを感じていますが、多くの農家ではなかなかそこに至らない状況です。これからの進展に期待したいと思います。

(事務局)

それでは、農畜産業の担い手育成に関しては、今後、どのような取組が考えられるでしょうか。

(春日委員)

担い手の育成について考えると、新規就農と親元就農の二本柱しかありません。相続の形を考えると、親元就農がベストで、一番スムーズにいけます。ただ、なかなかそうもいかないところがあります。一方、現在は農業ブームでもあり、新規就農の方が多く、農業をやりたいと道央農協に相談をいただくことがあります。現在、道央農協は公社という形で、江別市、千歳市、北広島市、恵庭市の4市の中で2年から3年研修してもらい、新しい農地が提供されるタイミングで新規就農してもらおうという取組を行っています。

親元就農を推進するという取組は、なかなか難しい状況ですが、今は、農業がとても魅力のある産業だと認められてきて、農家出身の若い方もかなり農業に戻ってきています。やはり農業の魅力を作り出すことが大事だと思います。

(事務局)

農業は魅力的だと思われるようになってきた一方で、大変というイメージもあると思います。昨今はデジタル技術を活用したスマート農業などの取組も進められていますが、デジタル技術を活用した取組状況についてはいかがでしょうか。

(春日委員)

これからは避けては通れないというか、既に若い世代を中心に動き出しています。法整備がやや遅れているので、無人トラクターは使えませんが、いわゆる自動操舵、GPSを用いて、自動で走行することができます。また、ドローンの技術で農薬を散布することも、もう既にできています。コストがかかるため、ある程度の面積がなければ採算が取れませんが、テクノロジーがより広がって、導入費用が下がれば、もっと取り入れられていくと思いますし、農薬などもトラックよりドローンで散布する方が、脱炭素社会の実現にも貢献するのではないかと思います。

(事務局)

コストがネックになっているということでしょうか。

(春日委員)

確かに、機材は高額です。しかし、何でもそうですが、広く普及することで費用は安くなります。したがって、まずは普及していくことが重要だと思います。

(井上委員)

農畜産物の高付加価値化は、江別市は既に、いろいろなことをやっていらっしゃる方がいて、ハイレベルな方もいます。そうした現実も踏まえた上で、次に何を指すかという書き方があっても良いのではないのでしょうか。決して、今、江別市のレベルが低いわけではなく、町村農場などの良い例があると思います。都市と農村の交流であれば、豊幌地区の農家さんたちが取り組んでいる、全国的にも知られた取組もあります。それと、ハルユタカ以降、新しい動きが出てこないという話がありましたが、道内各地の農村と江別市の農業の状況を比較して思うことは、江別市役所の皆さんに危機感があっても良いのではないかと常に思っています。離農が多くなり、農業が基幹産業である過疎が進んでいる地域と比べると、今でも人口がいることが大きなポイントになっているのかもしれませんが、補助事業の案内など、いろいろなイベントや六次産業化を行っている方々の直売の取組のサポートはかなり熱心にやってくださいますが、当事者の一人として、江別市の農業を何とかしなければならぬという思いをどれだけ持っているのか疑問を感じることはありません。

す。もう少し踏み込んでも良いのではないかと思います。

(事務局)

いただいた意見は、もう少し市として危機感を持ってほしいということ、主体性を持って農業振興に取り組むべきであるということを受け止めました。

(明神部会長)

つながりという意味では、九つの政策がそれぞれ独立しており、関係する方々がそれぞれ頑張ろうという構成になっています。理念や将来都市像としては、やはり住民が中心にありますので、政策は、住民の幸せ、コミュニティをつなげるベースとして進めていかなければいけないのではないのでしょうか。

(事務局)

政策間のつながり、いろいろな政策が横串になって、様々な取組を進めていく基盤として、協働という考え方があり、江別市は自治基本条例に基づいて、市民協働の考え方で、しっかりとあらゆる分野を考えながら取り組んでいくという考え方があります。

総合計画を皆さんにお示しする際に、冊子にする際には、そういったところを分かりやすく表現していきたいと考えています。

(齋藤委員)

妻の実家が安平町で農業をしているので、自分も手伝うことがあります。江別市との違いは、やはり高齢化、過疎化が進んでいて、人手が少ないことです。アルバイトを頼むといっても、知り合いを通じて頼んでいく中で、去年まで来れた人が、今年は来れなくなったということが増えています。江別市はまだ、道央農協に頼むと人が集まるということは、大きなメリットだと思います。妻の実家では、以前は苗を作ってから植えていたものを、直接、種を植えるように工夫するなど、人手を使わないようにしています。

江別市は、人出があるという強みを持っていると思いますし、江別市の畑は平坦ですが、妻の実家は山間地なので、畑が三角や台形で、植えていても、畑の奥が見えないような地形です。江別市の平坦で四角い畑にはとても憧れます。農業機械を導入する時も、まっすぐ入ってまっすぐ出てくることのできるものが、石狩平野にある農地の強みであり、魅力ではないかと思いました。

農家は、やはり農家として生計を維持していけるかが最も重要だと思います。農家への補助もありますが、それだけではなく、地元の食材を我々がどうやって食べていくのかも大事なことだと思います。安い物を買いたくはなりますが、地元の安全なおいしい食材を食べていくことは、農家の努力というより、我々消費者の意識改革もしていかなければならない部分で、とても重要だと思います。

それから、農業を知ることでも大事で、うちの子どもも、農家を手伝うことで、他の人よりも畑に触れる機会が多いです。小学校でもグリーンスクールなど、いろいろ取組がありますが、農家に行って土に触れることで、こういうふうに野菜ができるとか、お店で買うトマトもおいしいが、畑で熟したトマトを採って食べると味が違って、苦手だったが克服できたということなども、農家で経験できるため、子どもも大人も農業に触れる場があってもいいのではないかと思いました。

また、妻の実家の地域では、農家の方々とお祭りをしていました。何軒かお店を出して、自分たちで作ったものを売ったり、安平町は雪だるま郵便も有名なので、雪だるま郵便も利用して、いろいろなところへ送れるようにしていました。その中で芋掘りの体験もできました。江別市でも、農業祭りはありますが、買うだけではなく、体験型として、農家の顔が見えるようなイベントがあっても面白いのではないかと思います。

(事務局)

農業に限らないと思いますが、皆さんに興味を持っていただけるような取組を考えて、実際に行動に移していただくことが非常に重要だと思います。

えべつの未来づくりミーティングでも、「食と農」を考えた時に、安い物というより、食材ができるまでのストーリーを知って、興味を持って購入していただくことが非常に多くなっているという話がありました。江別市も「食と農」のまちづくりを進めており、もっとそういったストーリーを、皆さんにお示ししながら取り組んでいくということも有効な手段だと思います。

また、えべつの未来づくりミーティングの中で、経験豊富な農業者の方から、小学生に畑づくりの体験をしてもらう取組をされているという話もお聞きしました。子どもに教えると、その経験がずっと記憶に残るので、非常に良いという話でした。

【政策04 安全・安心】

(明神部会長)

次に、政策04安全・安心の審議を行います。

市から、要点などがあればお話しいただきたいと思います。

(事務局)

資料1の6ページをご覧ください。

政策04の要点であります。政策名のとおり、市民の皆さんの安全と安心を確保しながら、誰もが住み続けられるまちを目指し、交通安全や防犯活動をはじめ、生活衛生環境、防災のほか、消防・救急に関する取組の基本方針を掲げております。

なお、今後、人口減少が進む中、安全で安心な生活環境を維持するためには、支え合いの考えが、より一層必要となります。そのほか、高齢化の進展により、救急の出動件数が増加傾向にあるなど、暮らしの根幹となる政策について、行政はどのように動いていくべきか、また、市民としてどのようなことができるのかなどについて、ご意見をお聞きできればと考えております。

(明神部会長)

ただいま、事務局から政策04について説明がありましたが、委員の皆さんから、お気づきの点があれば、ご発言いただきたいと思います。

まず、私から防災の関連で一つよろしいでしょうか。

先日、阪神淡路大震災の際に被災した、神戸市の若松鷹取公園の取組が紹介されていきました。災害時の火災を目の前にした経験から、公園の下に防火水槽を設けたり、地域の住民だけで消火訓練を行うということ、毎月続けているとのことでした。過酷な経験があったからだと思いますが、住民が自ら防災体制や防災意識の向上に向けた取組をされているところもあります。

(事務局)

地域防災力の向上ということで、自治会単位で、防災訓練などに取り組んでいるところがあると認識しておりますが、実際に私から、この件に関してお聞きしたいと思います。皆様がお住まいの地域で、地域防災に関する取組を行っているかどうか、もし行っていれば、今後どのように進めていくことが必要かなどの課題があればお聞きしたいと思います。総合計画策定に当たっては、人口減少社会にあることを念頭に置かなければなりません。また、高齢化も一層進んでいきます。10年前に比べると、高齢化率は約2倍になっておりまして、今は、高齢化率は31.7%で、年々高まっております。そのような中、地域で、どのようなことができるのか、また、助け合いをしていかなければ、行政が全てを担うと

ということが、難しい時代がもう既に来ていると感じております。

地域でどのような活動をされて、今後こういった考え方で進めていくべきかということ、少しお伺いしたいのですが、小野委員はいかがでしょう。地域での防災の取組などに参加されたことがありますか。

(小野秀司委員)

地域で実施された防災訓練に参加して、その時、初めてAEDの使い方を覚えました。AEDの機械を開くと、音声で案内されて、その指示に従って進めていくということを体験しました。また、何年前かに、地域の小学校で防災訓練を行った時には、ヘリコプターが降りてくるなど、ここまで本格的なことをやるのだと感心しました。また、私は参加できませんでしたが、一泊で冬場の災害体験をするという試みもありました。

やはり、一人暮らしの高齢者が増えており、そういった方を一生懸命把握しようとする動きがありますが、万一の時に、どこまで救助やサポートの手を差し伸べられるかという点については、まだまだ不十分だと思います。一つの可能性としては、大麻地区で言うと、大学生がたくさんいて、運動部の人たちが、ボランティアで除雪してくれています。そういった関係をさらに発展させる中で、うまく機能するような仕組みができれば良いのではないかと思います。

(事務局)

地域で活動が活発なところは多くあります。災害時には、自分の命は自分で守るという考え方が基本となりますが、一方で、小野委員がおっしゃったような、要配慮者、災害時要援護者の方も、先ほどお話ししたように年々増えており、その方々に対する市の取組、支援が非常に重要になっています。一方で、地域でそのような方への支援として、こういったことができるのかも非常に重要になっています。

(星委員)

安心・安全という観点で言うと、私には小学校に通う孫がいるのですが、見守り隊のような方々がいるから、安心して子どもたちが学校に通うことができます。旗を持って誘導してくれるので、非常にありがたいと感じています。

また、自分が住んでいるところは農村地域のため、一家に1台トラクターがあり、冬はトラクターに除雪機を直接つけて除雪をしてくれることから、とても助かっています。ただ、農村地域の住宅であるため、吹きだまりが多く、昨日の猛吹雪の時には、ほとんど前が見えない状況でした。

(事務局)

記憶に新しいというか、つい昨日のことでありました。昨日も市内の農村地域で、車がスタックしてしまったという話を聞きました。また、今、見守り隊の話をいただきましたが、そういったものは、地域活動の代表的な例だと思います。齋藤委員は、このような取組についてどう考えているか、また、実際に参加されているのかなど、お伺いします。

(齋藤委員)

仕事でなかなか行けないのですが、学校としても、PTAが日程を決めて、朝と晩に見守りに立ってほしいなど、地域の方にもお願いをしています。とてもありがたく、本当に感謝しております。個人の理想としては、一昔前のように、地域で子どもを育ててもらえると本当にありがたいと思っています。見守り体制はとてもありがたいですが、強いて言えば、子どもたちの通学路付近の各家庭から、少しだけ見守ってくれるような、地域全体の見守りがあれば良いと思います。お母さん方も忙しいので、交差点には立てないかもしれませんが、家の前で、行ってらっしゃいを見守ってくれるだけでもありがたいと思います。

(事務局)

確かに一昔前までは、近所が家族のような雰囲気がありました。ただ、今は一軒隣にどんな人が住んでいるか、三軒隣にどんな人が住んでいるのかが、わかりにくい時代になっていて、つながりという点では非常に危惧しています。一方で、これから人口が減少していく中、その地域で支え合いや助け合いをしていかなければ、そこに住んでいること自体が困難になってくる時代が、すぐ近くに来てしまうのではないかと思います。

山崎委員は、地域のつながり、また、政策04に関することでご意見はありませんか。

(山崎委員)

防災意識の向上がもっと進むといいと思います。日常生活での経済活動や行動が、備蓄など、実は防災につながっているということ意識啓発すると良いと思います。防災を身近に感じて進められる取組なども良いと思います。こんなことでも防災につながっているということを、皆さんに知らせて意識してもらおう取組などが良いのではないのでしょうか。

(事務局)

知るということが意識することにつながるというお話でした。

先ほど、明神部会長から阪神淡路大震災の経験が生かされて、様々な取組が円滑に進んでいるというお話をいただきましたが、いかがでしょうか。

(明神部会長)

目の前で火が燃え移って、家がなくなり、知り合いが亡くなっていくという極限の経験をされたからこそ、防災訓練の必要性を意識することにつながっているのだと思います。

(事務局)

防災訓練の必要性について、災害を体験された方の話を聞くことで、地域の活動につなげていくということも一つの取組になるかもしれません。自分が行っていることが防災につながっていると知ることは、先ほどの地球温暖化対策の話と同様だと感じました。

(小野秀司委員)

私は、以前、新聞記者だったので、阪神淡路大震災の取材に行き、神戸市のFM局の取材をしました。いわゆるコミュニティFMではなかったのですが、非常にきめ細かい生活情報を放送していました。当時から神戸市には外国人が多かったので、そういった人たち、いわゆる情報弱者の方には情報が届かない状況でした。そこに、ここに行けば物が買えますよ、水が飲めますよ、ということ、いくつかの言語で放送していました。残念ながら江別市にはコミュニティFMなどはありませんが、一方で、今はインターネットの時代で、例えばLINEなどのSNSが普及しています。今日も感心しましたが、江別市からLINEで除雪情報が本当に細かく送信されてきます。今日この地区を除雪しますよ、今日はこの道路が雪のために閉鎖されています、先ほど解除されましたなど、本当によく送信されてきて、これは便利だと思いました。これからは、万一の時に地区ごとにうまく切り分けて使うなど、きめ細かな情報提供が求められるのではないかと思います。

(事務局)

様々な情報が、これからさらに重要になってきて、さらに、手軽に受け取れて、必要な時に必要な情報が手に入るような取組が必要になってくると思います。今の話は前回の審議会で紹介した江別市の公式LINEの話だと思いますが、明日除雪が入りますと夕方流れると、明日少し早起きして玄関前の除雪をしようかなどの予定が立てられます。さらに、江別市の公式LINEは、いろいろな市の情報が、プッシュ型で、必要な方に届けられます。これまでも挙げられていましたが、なかなか江別市の魅力が届かないという課題解消の一つのツールになっていくと思いますし、他にも、より効率的、効果的なものがあれば、

取り組んでいく必要があると思います。

(齋藤委員)

今、情報という話がありましたが、情報はとても大事だと思います。この政策だけではなく、他のページにもたくさん情報発信、情報提供という文言が出ているので、一つのテーマになるのではないかと思います。情報があるから安全にもつながりますし、魅力も発信できます。この情報という文言をうまく横断的に使いながら、一つのテーマにするということも効果的ではないかと思いました。

また、防災の件で、先ほど地域の話がありましたが、地域の悩みとして、最近では個人情報保護の問題があります。地域で一人暮らしの方が増え、市外からお子さんを連れて引っ越してこられた方も増えており、以前は家庭の状況を、名簿などを作って教えてもらえましたが、今は、個人情報なので教えないという方が増えています。一人暮らしの方が増えている地域で、人を守っていこうとする中で、あの家に誰が住んでいるか分からないことがあるという、葛藤の部分があり、どうやっていけばいいのだろうか、とても悩ましく感じています。

(事務局)

個人情報については、情報提供を望まない、拒む方に対して理解を促し、ご協力いただく姿勢は常に持ち続けていなければいけないと思いますし、支え合いの気持ちを理解していただくための取組を、とにかく続けていくしかないものと考えています。

先ほどのつながりの点で言うと、つながりが希薄になっているということは、自分の情報を他に知られたくないということで、非常に難しいところですが、これからは支え合いの時代だという市の認識もあるため、いかにして協力いただけるかにかかっていると思います。

(井上委員)

江別市には、北海道消防学校があります。北海道内では、札幌市の消防学校のほかには、江別市にしかない重要な地域資源であり、もっと活用しても良いのではないのでしょうか。例えば、消防学校では、防災に関する相当な情報を持っていると思うことから、連携して何らかの取組を行えば、防災に関わる政策を充実させ、もっとPRできると思います。小学校と連携すれば、より充実した政策が作れますし、江別市はこれだけ防災に力を入れている、地域資源を活用しているとPRすれば、防災意識の高いまちであると、他の地域、市町村からも認識してもらえきっかけになると思います。そうした地域資源の活用が、防災に関しても言えますので、そういった点について、今一度、検討いただければと感じました。

(事務局)

現時点で、北海道消防学校と江別市が連携しているか否かは調べが不十分ですので、持ち帰って、どういった連携をしているのかを確認したいと存じます。

【政策05 都市生活】

(明神部会長)

次に、政策05 都市生活の審議を行います。

市から、要点などがあればお話しいただきたいと思います。

(事務局)

資料1の9ページをご覧ください。

政策05の要点であります。取組の基本方針(1)市街地整備の推進では、コンパクトで機能的なまちづくりを進めていくほか、江別市の魅力を効果的に発信して、引き続き、子育て世代に選ばれるまちを目指します。

また、10ページになりますが、(2)暮らしを支える交通環境の充実では、道路環境づくりをはじめ、冬の道路交通の確保や、公共交通ネットワークの最適化と利用の促進に取り組んでまいります。

最後に、(3)では、現在、国を挙げて力を入れている、デジタル技術を活用した取組を行い、人口減少下にあっても、経済の縮小を抑制しながら、快適で豊かな暮らしの実現を目指します。

この分野は、これから江別市が、より力を入れていくデジタル化など、未来の江別市に深く関わる、また、関心の高い政策であると思いますので、ご意見をお聞きできればと考えております。

(明神部会長)

ただいま、事務局から政策05について説明がありましたが、委員の皆さんから、お気づきの点があれば、ご発言いただきたいと思っております。

(事務局)

明神部会長は、今、江別市で設置しているデジタル技術を活用した未来型政策を推進する、江別市未来型政策検討委員会で、会長をされています。また、江別市は、今年度からデジタル政策室という専門部署を設置し、デジタル技術を活用した取組を検討しています。

デジタル技術の活用といっても、幅広く様々な分野に関わっています。既に取り組んでいる分野もありますが、今後は、農業分野ではスマート農業、健康分野、公共交通などの分野で、デジタル技術を活用した取組が考えられます。

そこで、明神部会長に、江別市でこういったデジタル技術の活用が考えられるか、可能性があるか伺いたいののですが、いかがでしょうか。

(明神部会長)

私が勤める大学は、地下鉄の駅が近くにあるわけではなく、バスを利用している人が多く、通勤・通学には不便だと感じている部分があります。北海道は、自然が多く、食べ物もおいしいですが、観光地にしても、それぞれがかなり離れています。良いものがあるけれども、なかなかそこに行き着くまでには、車がないと行けないことが多い状況です。まちづくり政策の中に、公共交通ネットワークの最適化とありますが、それこそが皆さんの求めていることではないかと考えており、その取組に期待しています。

デジタル技術の活用としては、モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)と呼ばれる分野があります。今、JR野幌駅の前に2台ほどカーシェアリングの車が置いてあり、私が勤める大学の駐車場にも置けないものかと事業計画を考えてもらったことがあります。なかなか採算が合わないということでした。カーシェアリングは自分が運転しますが、今後は、運転する人と、車と、その車に乗せてほしいという3者が、ネットワークでつながって移動できるようなことが、将来できるかもしれません。カーシェアリングに加えて、シェアリングのドライバーも含めた取組になるのではないかと思います。アメリカ合衆国のサンフランシスコなどでは、タクシーの代わりにウーバーが増えているそうですが、日本でも元気な高齢者が運転手として手伝ってくれるかもしれません。

バーチャルがつながって、リアルなところで利便性を高めていくということが、このこと以外にもいろいろ出てくるのではないかと考えています。

(事務局)

実際に、江別市が抱える課題を解消するために、人と人をつなげるサービスなど、そういったものにデジタル技術を活用するというお話でした。山崎委員はいかがでしょう。

(山崎委員)

除雪の状況がデジタルで分かると良いのではないかと思います。除排雪に対する意見は市民アンケート調査でも多かったので、今どこを除雪しているかが分かると良いと思います。

(事務局)

デジタル技術を活用する際には、これからサービスが低下してしまうであろうという部分や、実際に今、大きな課題になっているところに、まさにデジタル技術を駆使する、投入するということが重要な考え方だと思います。

千歳市では、今、除雪車がどこを走行しているのかが分かるような取組を行っているようです。また、えべつ未来づくりミーティングに参加してくださった、除雪を担っている方から聞いた話ですが、実際、江別市でも、除雪に回る時に、今までは2人でやっていた作業を、デジタル技術を活用すれば、いろいろな確認をするためにもう1人必要であったことが不要になって、1人でもできるようになるとのことでした。そういった取組をこれからもっと進めていくと、人手不足の時代にあっても、同じようなサービス、また、さらに利便性が高まるようなサービスを提供することもできると思います。

(本山委員)

私は、大学でGIS（地理情報システム）を勉強する機会があって、面白いと思いました。様々な情報を衛星画像上に取り込んで、情報を可視化することができます。

また、話は変わりますが、この間、えべつ環境広場というイベントで、昔の江別市の衛星画像と、今の衛星画像を比べてみて、何が変わっているのかを、市民の皆さんに比べて見てもらう企画がありました。面白いと思ったのは、私は江別市についてよく知らないのですが、その企画の中で、「昔はこういうものがあったんだよ」、「ここは森林だったが、今はこういうものになっている」などの話を聞き、過去の江別市を知ることができて良いと思いました。

また、私は、ボランティアクラブに所属していますが、ごみ拾いなどをする際に、どこに何が落ちていたかを画像に記して、その状況を踏まえて、どのような対策をしていけばごみが減るのかなどができたなら良いと思いました。デジタル技術はいろいろな活動に利用できると思います。

(事務局)

いろいろな活動をされていて、素晴らしいと思います。ごみ拾いの取組にしても、デジタル技術を活用して、さらに、幅広い活動や、効果的、効率的な取組に進展、進化する可能性があると思いました。

(齋藤委員)

今聞いていて、とても面白い取組だと感じました。まず、情報発信をする際に、デジタル技術をうまく使えないかと思いました。先ほどの本山委員の、江別市の過去と現在を比較する話や、阪神淡路大震災の話もありましたが、いろいろな過去の記録を、アーカイブのようにデジタル上に残して、見たい時に見えるようにしておくことは面白い取組だと思います。高齢化が進み、江別市の昔を知っている人が少なくなっていく中で、書籍として江別市の歴史は残っていますが、加えて、言葉で話しているようなデータも残していくことができれば面白いと思います。自分は上江別生まれなので、小さい頃は江別小学校の横に鉄道が走っていたほか、火力発電所があったことなどを覚えています。過去と現在の違いを、その場に行ったり、イベントに参加したりしなくても、いろいろな人がアクセスして情報を得られるようになったら面白いと思いました。

あと一つは、江別市民として、皆さんが興味を持っているのは、政策05の(2)の②冬期の市民生活を支える道路交通の確保だと思いますので、ここもアピールできれば良い

のではないかと考えています。

話は変わりますが、先日テレビで、日本のどこの地域か分かりませんが、無人バスを導入しているまちが紹介されていました。先ほどもドライバーカーシェアリングの話がありましたが、もう一つの形として、無人バスも面白いのではないかと考えています。これを導入することで、もしかしたら企業の誘致につながるかもしれないなど、いろいろな発展も考えられます。

(事務局)

無人バスは、デジタル技術を活用した、最先端の取組ですが、新聞では、函館市がグリーンスローモビリティの実証運行を行っていて、無人で観光地を回る取組をしているという報道がありました。江別市は公共交通が課題の一つとされているので、そういったものが、デジタル技術を活用して解決できれば、有効な取組になるかもしれません。

(明神部会長)

本山委員の話を聞いていて思いましたが、歴史上のものは、観光につながると思います。千古園や、屯田兵の宿舎、旧町村農場など、昔と今を、デジタル的に再現してお見せすると、歴史的なものも観光資源になるのではないのでしょうか。デジタル技術を活用して、暮らしを豊かにするとともに、観光地化もできるのではないかと考えています。

(井上委員)

公共交通をこれからも充実させていくとのことですが、道路網に関しては、江別市は既に充実しているため、もっとPRするのも重要だと思います。高速道路は、日本海側にも太平洋側にもつながっており、物流にとっては大きなメリットのある立地条件を備えています。インターチェンジのすぐ近くに工業団地もあります。鉄道も、札幌市から近い点をPRする必要があります。快速がなくなったことなど、あまりそういった後ろ向きなことは言わず、もっと利便性があることを、対外的に訴えていく必要があるのではないのでしょうか。総合計画にも、交通の利便性の良さを記載しておくといいのではないかと考えています。

(事務局)

交通アクセスの良さは、えべつの未来づくりミーティングの中でも話があり、実際に車を持っていないと厳しいという話をいただく一方で、江別市はいろいろなところに行きやすく、非常に交通アクセスが良いので、そういうこともPRしていく必要があるという話もありました。総合計画の中で、どのようにお示しするか、検討していきたいと考えています。

(春日委員)

デジタル技術の活用という点で、できるかどうか法的な整備もいろいろあるかと思いますが、医療面での活用を考えてほしいと思います。江別市内には個人病院が多いと思いますが、どこも結構混んでいて、診察までかなりの時間がかかります。大学の授業も今はリモートが普及している中、医療でも軽微なものなら、家にいながらでも診察を受けたり、薬に関しては、処方せんの出し方などいろいろな課題があると思いますが、薬を受け取ることができるなど、そういうことも提案していけば良いのではないかと考えています。

中心市街地から離れていると、デマンド型タクシーが整備されていけばいいのかもしれませんが、ご高齢の方がなかなか病院に行けないという問題もありますので、いずれはリモート受診を考えていただき、健康増進都市という形で進めてもらえたら良いのではないかと考えています。

また、上下水道については、自分の住む江北地区には、今後も下水道は敷設されないと思うので、今それぞれの家にある合併浄化槽が、設置してから年月が経ってかなり老朽化し、恐らく自費で更新しなければならない状況であるため、適切な管理ということで、耐用年数を超えた家庭にもう少し何か支援を考えていただいた方が良いのではないかと考えています。

ます。計画に具体的に載せるかは別にしても、下水道が敷設されないのであれば、考えていただけないかと思います。

(事務局)

確かに人口減少や高齢化が進めば、医療にかかることすら難しい時代が来るかもしれません。江別市は、医療機関もあり、札幌市にも大きな医療機関が多数ありますので、まだ恵まれているかもしれません。ただ、将来的に人が減るということは、医師の数も減るので、オンライン診療の取組がもっと広がっていけば、江別市でも先駆的に取り組むことができるという話でした。

また、上下水道に関しては、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。人口減少が続く中で、全ての地区に対して万全の体制を整備するとなると、経営上の課題として、水道料金を値上げしなければいけない状況にある自治体が増えております。江別市も将来的にどうなるかということとは危惧するところです。実際、同規模自治体の中ではまだ料金が低い方ではありませんが、人口推計から考えると、今後、見直しが行われることも考えられます。

したがって、まちを維持するためには、コストがかかるため、機能的なまちづくりにしっかりと取り組んでいかなければならず、江別市は将来人口を見据えて、コンパクトなまちづくりを進めながら、利便性を高めていく方向でいます。生活の質を落とさずに、いかに皆さんに、江別市に長く住んでいただけるか、そういったところに注意して、取り組んでいくことが重要であると考えています。

(小野秀司委員)

デジタル技術の活用のところで、市民サービスの充実や行政事務の生産性の向上を図るとあります。細かいところで恐縮ですが、公民館の団体での利用予約が未だに紙ベースです。公民館の窓口に行って、団体名や目的などを紙に書いて利用予約をしています。江別市と同規模の道外自治体の事例で、公共施設の予約をインターネットでできるところが多かったので、江別市でもデジタル技術を活用して、簡単にインターネットで予約できるように進めていただきたいと思います。

それから、江別市も観光と絡めて歴史的なところをデジタルで見られる、バーチャルで見られるようにしてはどうかと思います。遡ると、江別市は、大昔から人が住んでおり、遺跡がたくさんあります。酪農学園大学の先生から、酪農学園大学の国道12号のあたりは昔、海だったと伺いました。とても歴史の蓄積があります。また、野幌森林公園には、「駐蹕（ちゅうひつ）の碑」という大きな石碑がありますが、それは、戦前、天皇陛下が弟三人と一緒に来て、馬で散策して、そこで昼食をとったという場所で、とても立派な碑です。しかし、現在は、ほとんど立ち寄る人もいません。そういったものも知られていないので、残念だと思います。

去年、珈房サッポロ珈琲館Rinboku（リンボク）がオープンしましたが、あそこには、写真など関連した資料が展示されており、少し救われる思いをしましたが、そういったものも含めて、過去の記録を提供する機会や余地は、まだまだあると思います。

(事務局)

歴史文化の資料保存、展示にデジタル技術を活用することができるというお話でした。また、公民館の予約のデジタル化なども今後、検討していくことになっていくのではないかと思います。

(山崎委員)

自治会の回覧板も、デジタル化されると良いと思います。私は、日中不在なので、私が見る前に家族が次の家庭に回してしまうと、見ることはできません。デジタル化によってみんなが、いつでも見ることができる状況になれば、より良い自治会活動につながるの

はないかと思えます。

(事務局)

えべつの未来づくりミーティングで、自治会の方とお話をした時、新栄台地区では、比較的年齢層が若く、デジタル技術を活用して、いろいろな取組を行っているとのことでした。なぜかと言うと、役員の担い手不足の理由は何かと考えた時、役員の負担が重いことであり、デジタル技術を活用すれば負担を軽減できるのではないかということで、いろいろな取組を進めていました。また、その時には自治会費もキャッシュレスで行う予定という話も伺いました。そういった先駆的な取組が、市内全域に波及していけば、皆さんが参加しやすい組織になってくるのではないかと思えます。

【政策09 計画推進】

(明神部会長)

次に、政策09計画推進の審議を行います。
市から、要点などがあればお話しいただきたいと思えます。

(事務局)

資料1の11ページをご覧ください。

政策09の要点であります。取組の基本方針(1)は、基礎自治体としての、市の運営に関することについて掲げております。

また、12ページになりますが、(2)透明性と情報発信力の高い市政の推進では、これまでの広報広聴に関する取組を充実させていくほか、これから、さらに力を入れていく取組として、今回、新たに、②の広報の充実情報発信の充実を加え、必要な時に必要な情報が届くよう、様々な媒体を活用して効果的な情報発信に取り組むこととしております。

なお、これは、市民参加の取組である、えべつの未来づくりミーティングで数多くいただいたご意見を踏まえたものであり、江別市には良い取組や、魅力のあるお店、風景がある一方で、あまりその情報が市民をはじめ、市外の方にも届いていないのではないかとのご意見がありました。

この分野は、市の運営のほか、市の透明性と情報発信力に関するものであります。特に、前回の審議会でも市のLINEに関するご説明を申し上げましたが、市の情報発信に対するご意見をお聞きできればと考えております。

ちなみに前回ご説明した市の公式LINEの現在の登録者数は7,900人ぐらいで、今年度中に10,000人を目指したいと考えています。

(明神部会長)

ただいま、事務局から政策09について説明がありましたが、委員の皆さんから、お気づきの点があれば、ご発言いただきたいと思えます。

まず、私から一つよろしいでしょうか。

LINEを活用した今後の取組は考えていますか。

(事務局)

予定ではあります。今後はLINEを活用して双方向でやり取りができるような取組を検討していると聞いております。

(齋藤委員)

私も市の公式LINEに登録しています。ごみ出しの日の連絡も来ます。公道除雪が入る情報は、本当に助かっています。先日、PTA連合会の集まりがありましたが、その時

に、市の公式LINEを紹介したら、そこにいる役員はみんなとても喜んで、すぐに登録してくれました。

(事務局)

我々も市の公式LINEをたくさんの方に登録してもらって、いろいろなご意見をいただき、市民の皆様が必要な情報は何かの把握に努めることも一つの目的だと考えています。

(小野秀司委員)

情報発信は積極的にやってほしいですし、あとは情報を聞くことも大事だと思います。ベッドタウンとされる江別市だと、働いていて、いろいろな委員会に参加したり、いろいろな機会に発言したいと思っても、なかなかできない人が多いと思います。そういった声を聞く会を開催していただきたいと思います。そうすると、随分江別市も変わっていくのではないのでしょうか。また、聞くだけではなくて、大事なものは、その意見のフィードバックです。自分の意見がこういう形で生かされていると分かるようにして、場合によっては、その人を直接訪ねたり、お願いするというやり取りによって、住民参加は本当に機能していくと思いますので、SNSなどのシステムを活用して、運用の仕方を工夫してほしいと思います。

(山崎委員)

えべつ観光協会では、SNSで観光情報を発信しています。個人的には、市長のTwitterがあると良いと思います。若い人にも届くようになるのではないのでしょうか。

(明神部会長)

どのターゲットに、どのメディアを使うかも重要です。また、動画は効果が高いと言われています。簡単にライブでの配信もできるので、動画の配信も含めて使い分けをして推進していただきたいと思います。地域のイベントや自然現象などを、市民側から発信されると面白い取組になると考えます。

(井上委員)

まちづくり政策は、全体的に縦割りの感じが拭えません。SDGsとの関連も重要ですが、他の政策との関連性も明記した方が良いのではないのでしょうか。例えば、公共交通機関であれば、環境、脱炭素社会の実現にも関わります。また、まちづくりにも関わりますし、他の項目等の関連性もあるので、各項目が他の政策の何番と関連するかを記載しておく、その横との連携関係が明確になって、より理解しやすいものになるのではないのでしょうか。その点についてご配慮いただければと感じました。

(齋藤委員)

文言ではなく、SDGsのアイコンを掲載されているように、何かマークでも良いと思います。子どもならば、子どもの顔がついているだけでも視覚的に訴えるものがあるのではないのでしょうか。これとこれがつながっている、政策全体としてまちを考えていくのだということを示すことにも、つながるのではないのでしょうか。

(明神部会長)

他に、委員からご意見はございませんか。

(なし)

(明神部会長)

それでは、以上で、次第3の審議事項を終わります。

事務局においては、本日の委員からの意見などを整理して、次回の専門部会で報告いただくよう、お願いします。

4 その他

(1) 次回の日程について

(明神部会長)

次に、次第4のその他の(1)、次回の審議会日程について、事務局から説明願います。

(事務局)

次回、第2回の専門部会について、ご案内申し上げます。

第2回の専門部会では、本日審議いただいた内容について、担当部局と調整して、整理した結果をご報告する予定でございます。

また、会場の都合から、第2回の専門部会は、2月22日(水曜日)午後6時から開催したいと存じます。よろしく願いいたします。

(明神部会長)

次回の専門部会は、2月22日(水曜日)午後6時から開催するとのことですが、ただいまの説明について、質問などはございますか。

(なし)

(2) その他

(明神部会長)

次に、その他の(2)について、委員の皆様から何かありませんか。

(なし)

そのほか、市から何かありますか。

(なし)

5 閉会

(明神部会長)

本日予定していた議事は、全て終了いたしました。

以上をもちまして、第1回江別市行政審議会専門部会第1部会を閉会いたします。